

小笠原村教育委員会教育長
桐川 勲 様

小笠原村立小笠原中学校長
小野 満 賢 公印

令和2年度 小笠原村立小笠原中学校 評価報告書

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標

[教育目標]

- よく学び、考え、行動する人
- やさしくたくましい人
- 社会の一員として貢献できる人

[学校経営方針における教育活動の重点目標]

- (1) 教科の学習を通して身に付けた資質や能力を活用して課題解決力を高め、「多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力」を育成する。
- (2) 特別の教科 道徳や特別活動を通して、自他の違いを認め、尊重する態度を育み、「心豊かな思いやりの心情」と「全体を考えて行動する態度」を養う。
- (3) 総合的な学習の時間等の活動を通して、社会や世界に対する興味や関心を深め、「自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む意欲や態度」を育む。
- (4) 地域の教育センターとしての役割を基盤として、積極的に保護者や地域の学校参画を推進し、「生徒の教育活動の豊かな拡がりの実現」を目指す。

2 学校関係者評価の概要

【保護者】(小笠原村立小笠原中学校 保護者アンケート集計結果 参照)

[実施状況]

- 令和2年12月に実施した。66名、回収率98.5%
- 「授業改善推進プラン」の作成が3学期に移ったため、それに関する問いを1問削除し、21項目で実施。経年比較ができるよう、アンケート内容は例年と同じにして実施した。
- 方法は生徒を通じて配布し封筒を使用して回収した。
- 学校だより1月号に一部掲載。3月保護者会で資料とともに示す予定。また、学校ホームページで公開する。

[保護者アンケート集計概要]

- 肯定的評価 80.0%以上 15項目 (前年比 ±0)
- 80.0%未満 6項目 (前年比 -1)
- 肯定的評価が最も高い項目
設問 3 保護者会や面談等、保護者の方に来校していただく機会は、適切な時期・内容で設定されている。(95.5%)
- 肯定的評価が最も低い項目
設問 21 学校ホームページを活用している(見たことがある)。(48.5%)
- 肯定的評価が昨年度より5.0%以上上昇した項目 3
設問 10 英会話能力を高めるために、ネイティブイングリッシュティーチャーによる授業など、授業を工夫している。(86.4% +33.3%)
設問 18 学校施設は整備され、教育環境が整っている。(86.4% +15.6%)
設問 15 防災や防犯、交通安全などの安全指導が、避難訓練などを通じて適切に行われている。(87.7% +8.1%)

○肯定的評価が昨年度より5.0%以上低下した項目 4

- | | | |
|------|---|----------------|
| 設問17 | 生徒の自主性や主体性を養うために、学校行事や生徒会活動や部活動に学校は取り組んでいる。 | (80.3% -11.4%) |
| 設問7 | 生徒が主体的に学び、考えられるよう、授業を工夫している。 | (72.8% -8.9%) |
| 設問11 | 総合的な学習の時間等で小笠原の特徴を生かし、地域と連携した活動が進められている。 | (83.4% -6.4%) |
| 設問6 | 学習指導全般において、基礎・基本の定着に努めている。 | (81.8% -5.9%) |

[分析]

- 【学校運営・経営方針】の全ての項目で肯定的評価が92.0%以上であった。教育課程はコロナ禍で予定通りに進まなかったが、できるだけ中止にせず、延期したり、形態を工夫したりして実施するなど、学校が示す指針・方向性をその都度丁寧に示しながら、ある程度行うことができていることで一定の評価を得られていると考えられる。
- 【授業・学習】の項目で9項目中6項目が前年度より低い評価となった。特に「基礎・基本の定着」「主体的な学び」については、学校の他に学びの場が無いことから、学力向上に向けての学校への期待と、指導方法の工夫改善を求められていることの現れだと思われる。また「地域と連携した総合的な学習の時間」「道徳授業」については、今年度コロナ禍により、硫黄島訪島事業の中止や母島移動教室の延期、ゲストティーチャーを招いての授業ができなかったことや、道徳授業地区公開講座の中止により、保護者・地域に学習の効果や成果を伝えきれなかったことなどが原因していると思われる。一方で、ネイティブイングリッシュティーチャーを活用しての英会話能力の向上については、授業参観や学校だよりでの紹介、総合的な学習の発表会を通じて保護者や地域の方にご覧いただくことができたことや、英語科教員の努力もあって目に見える変化があり、肯定的評価が30.0%以上も上昇した。
- 【生活指導】の項目において、「マナーやルールの指導」「安全指導」「いじめ等を含む生活指導上の諸問題への適切な指導」への肯定的評価が昨年度より平均4.0%以上上昇した。本校の生徒一人一人を大切に、丁寧に指導する体制を評価していただいたものとする。
- ホームページの活用率は3.6%上昇したが、Facebookの活用率は3.6%減少した。情報発信は頻繁に行ったが活用には繋がっていない。
- 「生徒の自主性・主体性を養うために、学校行事や生徒会活動や部活動に学校は取り組んでいる」の項目は、肯定的評価が11.4%減少した。行事については一定量の評価をいただいているので、生徒が主体的に活動していた部活動がなかなかできなかったことや、目標とする夏の大会が無くなってしまったことで生徒の意欲が大きく落ち込んだことが大きく影響していると思われる。
- 回答で、E（答えられない、わからない）を選択する保護者が、平均10.0%（最大25.8%）あり、本校の教育活動に関する広報・アナウンスに、より一層努める必要がある。

[次年度に向けて]

- 【学校運営・経営方針】については、次年度の学習指導要領の全面実施に向けて改めて構築したもの・変更したのものがあるため、学校だよりや保護者会等で丁寧に説明していく。
- 【授業・学習】の「基礎・基本の定着」「主体的な学び」については、「学力向上を図るための全体計画」に基づき、R-PDCAサイクルを活用し、個別最適な学びを、家庭の協力を得ながら進めていく。授業力向上については組織的・計画的に研究授業を行い、互いの授業を見合いアドバイスしていくとともに、島しょ研やオンラインでの講習などを通して組織的・計画的に図っていく。また、今回肯定的評価が高かった英会話の授業とその成果については、引き続き授業を充実させ、保護者・地域の方に向けて発表する場面等を設定し、更に理解を得る。
- ホームページやFacebookからの配信については、引き続き内容を充実させるとともに、リアルタイムでアクセスしやすいレイアウトを工夫していく。年度当初に閲覧の登録をしていただくなどの広報活動をさらに推進していく。
- 次年度においてもwithコロナの意識をもち、柔軟に教育活動を展開していく。予定通りにいかないことはあっても、教職員が一枚岩になり、教育課程の実施に向けて最善を尽くす姿勢を生徒及び保護者・地域にも示していく。

【生徒】「小笠原村学力調査」（9月4日実施）より 意識調査として全中学生で実施
生活行動（基本質問）について

【全国平均より肯定的評価が10.0%以上高いもの】

(1年)

- ・勉強にパソコンを利用している。(86.7% +38.7%)
- ・地域の行事に参加している。(86.7% +32.2%)
- ・睡眠不足にならないようにしている。(83.3% +15.6%)
- ・困っている人の手助けをしている。(83.3% +14.3%)
- ・勉強に辞書を利用している。(50.0% +12.9%)
- ・体育の授業のほかにも運動している。(90.0% +11.2%)
- ・朝は、時刻を決めて起きている。(93.3% +10.4%)

(2年)

- ・地域の行事に参加している。(89.5% +47.8%)
- ・自分で勉強の計画を立てて、勉強している。(84.2% +20.1%)
- ・通信添削を利用して、勉強している。(36.8% +18.2%)
- ・勉強にパソコンを利用している。(63.2% +16.0%)
- ・家の人から言われなくても、進んで勉強している。(78.9% +15.8%)
- ・家の手伝いをしている。(84.2% +13.5%)

(3年)

- ・勉強にパソコンを利用している。(66.7% +27.8%)
- ・本（マンガや雑誌を含まない）を読んでいる。(86.7% +24.8%)
- ・家の手伝いをしている。(86.7% +20.3%)
- ・困っている人の手助けをしている。(73.3% +17.1%)
- ・家では、勉強する場所を決めている。(93.3% +14.5%)
- ・体育の授業のほかにも運動をしている。(93.3% +12.8%)

【全国平均より肯定的評価が10%以上低いもの】

(1年)

- ・学習塾に行つて勉強している。(3.3% -31.3%)
- ・出掛けるときは、家の人に行き先を言っている。(66.7% -20.0%)
- ・勉強に図書館を利用している。(3.3% -14.0%)
- ・勉強するときは、集中して勉強している。(63.3% -13.7%)
- ・本（マンガや雑誌を含まない）を読んでいる。(50.0% -11.3%)

(2年)

- ・学習塾に行つて勉強している。(5.3% -48.0%)
- ・新聞の記事を読んでいる。(0.0% -19.1%)
- ・出掛けるときは、家の人に行き先を言っている。(68.4% -13.5%)
- ・参考書や問題集などを使って、勉強している。(47.4% -12.9%)
- ・朝は、時刻を決めて起きている。(73.7% -11.5%)
- ・勉強に図書館を利用している。(5.3% -10.7%)
- ・自分で時間を決めて、テレビを見ている。(36.8% -10.1%)

(3年)

- ・学習塾に行つて勉強している。(0.0% -46.9%)
- ・出掛けるときは、家の人に行き先を言っている。(60.0% -27.6%)
- ・勉強に役立つテレビ番組（クイズ番組など）を見ている。(33.3% -20.7%)
- ・勉強に、辞書を利用している。(13.3% -19.9%)
- ・勉強するときは集中して勉強している。(60.0% -18.8%)
- ・自分で勉強の計画を立てて、勉強している。(46.7% -17.9%)
- ・筆記用具などを用意してから、勉強している。(80.0% -12.5%)

[分析]

- ・ 体育の他にも地域のスポーツ団体に所属したり、仲間同士で集まってサッカーやバレーボールをしたり海で泳いだりするなど、高い割合で運動をしている。
- ・ 地域の行事に積極的に参加する生徒が多い。
- ・ 学習塾が島内にないのは事実であり、学力を高めるための要となっているのは学校であり、期待は高い。
- ・ 新聞を読む習慣がどの学年にもない。また読書量については学年が下がるにつれて少なくなっている。
- ・ 勉強の計画を立て、集中して臨む力に課題がある。
- ・ 家の人に行き先を告げずに出掛ける傾向がある。

[次年度に向けて]

- ・ 地域の中にある学校として、地域と連携し協力を仰ぎまた、地域に貢献しながら生徒を育てていく。
- ・ 小笠原の子どもたちの学習を支えるのは学校であることを再認識し、家庭の協力を仰ぎながら個々の学力の向上を図っていく。
- ・ 朝読書の充実と、図書館利用に向けた指導、読書に関連したビブリオバトル等の実践も視野に入れながら、読書活動を活発にしていく。同時に新聞記事を授業へ活用していく。
- ・ 小笠原中の学力向上全体計画に基づき、計画的に学習を進めるとともに、自身の学習スタイルを修正しながら確立させていく指導を行う。
- ・ 生活指導の年度当初のガイダンスにおいて、外出時には家の人に行き先と帰宅時間を伝えるように指導していく。

生活行動（発展質問）について

【全国平均より肯定的回答（とてもある・まあまあある）が多かったもの】

- ・ 自分のことが好きである。（1年 90.0% +40.4%、 3年 66.6% +23.7%）
- ・ 自分には良いところがあると思う。（1年 86.6% +24.3%、 3年 86.6% +30.0%）
- ・ 自分は友だちから認められていると思う。（1年 86.7% +19.6%）
- ・ 自分は先生から認められていると思う。（1年 73.4% +17.3%、 2年 68.4% +11.8%、
3年 66.7% +11.0%）
- ・ 自分は家の人から認められていると思う。（1年 86.7% +13.4%、 3年 80.0% +10.1%）
- ・ 自分が住んでいる地域が好きである。（1年 93.3% +11.0%、 3年 86.7% +1.8%）
- ・ 学校が好きである。（1年 83.3% +4.9%）
- ・ 自分の力をできる限り伸ばしたいと思う。（1年 とてもそう思う 70.0% +9.6%）
- ・ 将来の夢や目標をもっている。（1年 とてもそう思う 66.7% +18.8%）

【全国平均より否定的回答（あまりない・まったくない）が多かったもの】

- ・ 学校が好きである。（3年 33.3% +18.2%）
- ・ 自分にはいいところがあると思う。（2年 47.4% +10.1%）
- ・ 自分の力をできる限り伸ばしたいと思う。（3年 20.0% +10.3%）
- ・ 将来の夢や目標をもっている。（2年 42.2% +10.1%）

[分析]

- ・ 1年と3年については自己肯定感が高く、自分のことが好きで、友だち、先生、家の人から認められていると感じている。
- ・ 比較的自己肯定感が低い2年生も、先生からは認められていると感じている。
- ・ 自分の住んでいる地域についてはどの学年も好きと感じている。
- ・ 学年が進むにつれて、自分の夢や目標が見えなくなり、もてる力をできる限り伸ばしたという気持ちが薄れている。

[次年度に向けて]

- ・ 生徒一人一人を大切に、活躍の場を与え、褒めたり成就感達成感を味わわせたりして自己肯定感を育むとともに、キャリア教育に力を入れ、将来の自分の姿をイメージさせ、日々の学校生活や学習を積み重ね、確実な学力と生きる力を付けて自信をもたせる。
- ・ 学校は生徒にとって安全で安心できる場であり、努力によって力を伸ばせる場所であることを意識させる。生徒同士、生徒と教員とのコミュニケーションを大切にするとともに、恥ずかしがらずに自分の課題と向き合わせ、自分自身で克服する手助けをしていく。

(小笠原村立小笠原中学校 授業アンケート集計結果)

[実施状況]

○年2回実施

6月と11月に以下の授業アンケート（11月は設問11は除く）を期末考査後、全校生徒に記名式で実施した。

4：あてはまる 3：だいたいあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない の4択

5教科

- 設問 1 授業を受けることが楽しいと感じられる。
- 設問 2 教科書やノートなど、授業に必要なものの忘れ物をしていない。
- 設問 3 授業中の指示や決まりを守って授業を受けることができている。
- 設問 4 「宿題」や「提出物」を期限内にきちんと提出できている。
- 設問 5 ノートやプリントへの記入をしっかりと行うことができている。
- 設問 6 予習・復習を行い、理解や上達に努めている。
- 設問 7 授業で、先生の「授業を進めるスピード」は良かったと思えましたか。
- 設問 8 授業で、先生の「声の大きさ」や「説明」はちょうどよく分かりやすいと思えましたか。
- 設問 9 授業で、先生の「板書」は見やすいと思えましたか。
- 設問 10 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。
- 設問 11 授業で、評価の方法について、説明がされていきましたか。

4教科

- 設問 1 授業を受けることが楽しいと感じられる。
- 設問 2 教科書やノートなど、授業に必要なものの忘れ物をしていない。
- 設問 3 授業中の指示や決まりを守って授業を受けることができている。
- 設問 4 「作品」や「提出物」を期限内にきちんと提出できている。
- 設問 5 演奏、運動、制作などの活動に積極的に参加できている。
- 設問 6 定期考査に向けた学習に取り組んだ。
- 設問 7 授業で、先生の「授業を進めるスピード」は良かったと思えましたか。
- 設問 8 授業で、先生の「見本」や「お手本」は分かりやすいと思えましたか。
- 設問 9 授業で、先生の「板書」は見やすいと思えましたか。
- 設問 10 授業で使う道具やワークシートなどの教材は効果的でしたか。
- 設問 11 授業で、評価の方法について、説明がされていきましたか。

設問1～6について（生徒自身の取組の評価として）の肯定的評価の割合

(1年)

	設問1		2		3		4		5		6	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	96.7	93.3	80.0	86.7	96.7	86.7	96.7	80.0	96.7	96.7	93.3	83.3
社	90.0	90.0	73.3	93.3	100.0	100.0	86.7	93.3	93.3	100.0	96.7	96.7
数	100.0	93.3	86.6	76.7	100.0	96.7	86.7	86.7	100.0	93.3	100.0	96.7
理	96.7	100.0	83.3	100.0	96.7	100.0	80.0	76.7	96.7	96.7	96.7	96.7
英	93.3	93.3	83.3	96.7	96.7	100.0	80.0	90.0	90.0	96.7	93.3	86.7
音	100.0	100.0	90.0	100.0	100.0	96.7	90.0	93.3	86.7	100.0	86.7	93.3
美	93.4	100.0	83.3	96.7	93.4	96.7	96.7	93.3	96.7	96.7	83.3	93.3
体	100.0	93.4	80.0	100.0	100.0	100.0	90.0	93.3	96.7	100.0	93.3	93.3
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.7	100.0	93.3	100.0	83.3	96.7
家	100.0	100.0	90.0	90.0	96.7	100.0	96.7	93.3	93.3	100.0	93.3	86.7

(2年)

	設問1		2		3		4		5		6	
	1学期	2学期										
国	94.7	88.5	78.9	100.0	100.0	100.0	84.2	94.7	89.5	94.7	100.0	94.7
社	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	89.5	89.5	94.7	78.9	89.5	89.5
数	100.0	100.0	89.5	89.5	100.0	100.0	89.5	84.2	94.7	94.7	84.2	84.2
理	94.7	100.0	89.5	100.0	100.0	100.0	84.2	89.5	89.5	94.7	84.2	94.7
英	100.0	100.0	94.7	94.7	100.0	100.0	73.7	79.0	94.7	100.0	89.5	100.0
音	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7	94.7	100.0	100.0	94.7	79.0
美	94.8	100.0	94.7	100.0	100.0	100.0	94.7	89.5	100.0	100.0	84.2	94.7
体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	89.5	100.0	94.7	100.0	94.7	89.5
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7	100.0	100.0	100.0	89.5	84.2
家	100.0	100.0	94.7	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7	94.7

(3年)

	設問1		2		3		4		5		6	
	1学期	2学期										
国	87.5	81.3	93.7	93.7	87.5	87.5	100.0	93.7	100.0	100.0	75.1	81.3
社	100.0	93.7	100.0	93.7	93.7	93.7	100.0	87.5	100.0	93.7	87.5	87.5
数	100.0	100.0	100.0	93.7	93.7	87.5	93.7	81.2	100.0	93.7	93.7	87.5
理	87.5	93.3	100.0	100.0	93.7	86.7	87.5	80.0	87.5	93.3	81.3	100.0
英	100.0	100.0	75.1	87.5	87.5	87.5	75.1	87.5	93.7	100.0	81.3	81.3
音	100.0	94.1	93.7	88.2	81.3	76.5	93.8	88.2	93.7	82.3	87.5	88.2
美	100.0	93.3	100.0	100.0	87.5	86.7	100.0	86.7	100.0	93.3	81.3	73.3
体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.7	93.7	100.0	100/0	87.5
技	100.0	93.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	81.3	80.0
家	100.0	100.0	100.0	86.7	100.0	86.7	100.0	93.3	100.0	100.0	87.5	80.0

[分析]

- ・1年の1学期に忘れ物をする生徒が数名いたが、2学期になって改善されつつある。
- ・1・2年の授業規律はしっかりと整っていた。3年については、座学の授業において居眠りする生徒が数名おり、しばしば学年の課題として取り上げられていた。
- ・宿題や提出物・課題を期限内に提出できない生徒は、どの教科においても同じ傾向である。
- ・定期考査への取組は教科によってばらつきがあり、2年・3年になってもなかなか改善されていない。

[次年度に向けて]

- ・「授業規律や態度」「提出物に関すること」「ノートのまとめ方」「家庭学習の進め方」等については、小笠原中学校学力向上全体計画に基づき、新年度にオリエンテーションをしっかりと行う。また、「GW学習記録プログラム」により、学習習慣の見直し・改善を重点的に図る。
- ・小中連携の課題の柱として「生活習慣」や「授業規律」を挙げ、小学校低学年の段階から身に付けられることを増やしていく。

設問7～11について（教科を指導する教員の評価として）肯定的評価の割合

(1年)

	設問7		8		9		10		11	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	93.3	96.7	100.0	100.0	96.7	100.0	100.0	96.7	100.0	
社	96.7	93.4	100.0	96.7	96.7	96.7	100.0	100.0	100.0	
数	96.7	96.7	100.0	100.0	96.7	100.0	96.7	100.0	100.0	
理	93.3	96.7	100.0	100.0	93.3	100.0	96.7	100.0	100.0	
英	80.0	76.7	90.0	96.7	96.7	100.0	96.7	100.0	100.0	
音	100.0	96.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.7	100.0	
美	96.7	93.4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.7	100.0	
体	100.0	96.7	100.0	100.0	100.0	96.7	100.0	96.7	100.0	
技	93.3	93.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
家	96.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.7	100.0	

(2年)

	設問7		8		9		10		11	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	100.0	89.5	100.0	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
社	94.7	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
理	94.7	84.2	100.0	100.0	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	
英	79.0	89.5	100.0	89.5	89.4	100.0	100.0	100.0	100.0	
音	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7	100.0	100.0	
美	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7	100.0	
体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
技	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	
家	94.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

(3年)

	設問7		8		9		10		11	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
社	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
数	93.7	93.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.7	100.0	
理	81.3	93.3	100.0	100.0	93.7	100.0	87.5	100.0	100.0	
英	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	93.7	93.7	100.0	
音	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
美	100.0	100.0	100.0	100.0	93.7	100.0	100.0	100.0	100.0	
体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
技	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
家	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

[分析]

- ・1年は教科毎に替わる教科担任の授業のスピードが速いと感じている生徒が一部存在するが、学年が進行するにつれて学習内容に対応し、スピードが速いと感じる生徒は少なくなっていく。
- ・2年、3年においても、数学・英語・理科に関して進むスピードが速いと感じている生徒が複数人存在している。
- ・全ての項目について、大方の生徒が肯定的な評価をしている。特に板書・説明・見本の分かりやすさや、声の大きさはほぼ100%の生徒が高い評価をしている。

- ・当然のことではあるが、授業の評価の方法については全教科で説明がされている。

[次年度に向けて]

- ・令和3年度から評価の方法が大きく変わるので、今までとの変更点（3観点になることや、それぞれをどのように見取るのか等）を生徒に丁寧に説明し、理解させた上で努力をさせる必要がある。また保護者に対しても同様に丁寧な説明が必要である。
- ・目的意識を明確にし、生徒の関心・意欲が高められるよう、生徒の実態を踏まえた授業改善を推進する。
- ・生徒の学習意欲を高め、学びに向かう力を涵養し、さらに生徒の家庭での学習習慣を確立する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組①	<p>教科の学習を通して身に付けた資質や能力を活用して課題解決力を高め、「多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力」を育成する。</p>	<p>①基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させる授業、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。</p> <p>②指導と評価の一体化を図り、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。</p> <p>③主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れるなど、多様な実践を推進する。</p> <p>④授業規律の指導や、家庭学習を含めた望ましい学習習慣の確立のための指導を推進し、学習した内容の着実な定着を図る。</p> <p>⑤「全国学力・学習状況調査」や「都学力調査」、「小笠原村学力テスト」等の結果の分析を組織的に行い、課題の共通理解を図るとともに、指導・評価の工夫・改善に役立てる。</p>	<p>・各教科において1・2学期に実施した授業アンケート等に基づき、成果と課題を分析し、指導法の工夫改善を図っている。</p> <p>・年度の初めに各教科担当から授業のガイダンスを行い、どのような心構えや準備が必要か、家庭での学習をどのようにすればいいかを説明し、生徒の意識を高めている。各教科で年間を通じて繰り返し行っているが全体に浸透するには至っていない。</p> <p>・基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るための工夫とともに、思考力・判断力・表現力を育成するために「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業を計画に基づき実施した。しかし、基礎的・基本的な知識・技能の定着の個人差が激しく、二極分化が顕著になっている。</p> <p>・授業のねらいの明示、振り返りの時間の確保を学校全体で行うことで、生徒が授業のポイントを押さえ、理解に繋げやすくしている。</p> <p>・毎月発行する「進路学習だより」をもとにキャリア教育を推進し、生徒に目的意識をもたせ、学習意欲を喚起させる取組はできている。ただし、村内の高校には全入であることから、本人及び保護者に進路に対する危機感がない。高校卒業後のキャリア教育の充実が求められる。</p> <p>・「2週間学習プログラム」や「定期考査学習計画表」、「家庭学習ノート」の内容の工夫をするとともに、活用の仕方について丁寧に説明し、生徒の学習習慣の確立に努めたが、活用できている生徒とできていない生徒が二分している。</p> <p>・定期考査前の学習教室への参加を促し、各学年とも約8割の生徒が参加し、積極的に質問する姿が見られた。</p> <p>・授業規律が整い、落ち着いた学習環境が保たれた。しかし一部生徒においては授業道具を準備したり、ノートへ記述したりすることや、課題提出に向けて個別に細やかに援助しなければならず、小中連携や保護者の協力を得る必要がある。</p> <p>・各教科とも多様な考え方を引き出す授業を展開し、与えられた課題を広げたり発展させたりしながら学びを深める工夫を行った。</p>

<p>取組②</p>	<p>特別の教科 道徳や特別活動を通して、自他の違いを認め、尊重する態度を育み、「心豊かな思いやりの心情」と「全体を考えて行動する態度」を養う。</p>	<p>①人権尊重・道徳教育の充実 ア 道徳の時間の指導の充実を図る。 イ 人権尊重・生命尊重に関する指導を通して生徒の自己肯定感を高める。 ウ 道徳授業地区公開講座における道徳の授業及び意見交換会の充実を図る。</p> <p>②特別活動の充実 ア 学級活動では、より良い学校生活の実現に参画しようとする自主的・実践的な態度を育てる。 イ 生徒会活動では、自主的活動や、全校的取組を推進する。 ウ 学校行事では、生徒の自主性や主体性、集団への所属感や連帯感を育成する。 エ 部活動では豊かな人間形成を図る。</p> <p>③生活指導の充実 ア 生徒理解に努め、基本的な生活習慣の確立を図る。 イ 生徒一人一人の人権を尊重し、いじめを絶対に許さない学校づくりを推進する。 ウ セーフティ教室等を通して、健全育成上の課題を家庭や地域と連携して解決する。 エ 安全教育・防災教育の充実を図る。</p> <p>④教育相談の充実 ア 生徒一人一人の様々な不安や悩みの把握に努める。 イ 個に応じた指導の充実を努める。特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の活性化と、教育のユニバーサルデザイン化を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・35回の道徳授業を学年教員が全員持ち回りで行った。また毎回の授業を各学年で検討し指導案を作成した。授業は全員が参加し、生徒の変容を全員で見取っている。授業後は参観者から授業者へ助言を行うことで授業改善に努め、充実を図っている。また、道徳の授業を学年毎に異なる時間で設定し、異学年の教員も参観できるようにした。 ・道徳授業地区公開講座では昨年度と同様に教員・保護者・地域の他、代表生徒を意見交換会に参加させ、道徳授業への感想や、道徳の授業の前後での考え方の変化等を共有する予定であったが、緊急事態宣言の発出に伴い中止となった。 ・学年によって弾力のある学級活動の時間割を組み、計画的にじっくりと時間をかけてそれぞれの課題に主体的に取り組みさせることができた。 ・小中高連合運動会や父母交流等の連合行事はコロナの感染拡大防止の観点から中止とした。しかし、中学校単独で行う行事については、延期したり形態を変えたりと工夫をしながら実施した。コロナ禍の中でも最善を求め、行事に取り組みせ、大きな成果を得た。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、6月半ばまで部活動が行えず、島しょ大会や都大会は中止になった。文化部活動においても、音楽部については吹奏楽を行うことができず、生徒の主体的な活動の場面が失われた。 ・「全職員で全生徒を見る」を合い言葉にきめ細やかに様々な角度から生徒理解に努め、共有した。SCをはじめ関係機関とも積極的に情報交換をし、課題の未然防止・早期発見・早期対応に努めた。また、村の関係諸機関とも連携を進めた。 いじめは今年度0件。不登校については2年生1名は解消したが、1年生1名、3年生1名は変わらずであった。後半3年生の3名に登校を渋る様子があった。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を毎週設定し、課題のある生徒についての情報交換や今後の手立て等を緊密に話し合った。夏前にはUDについて、2学期には特別支援教室についての研修を行い、教職員の特別支援に対する意識を高めた。
------------	--	--	---

総合的な学習の時間等の活動を通して、社会や世界に対する興味や関心を深め、「自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む意欲や態度」を育む。

- ①生徒が将来の生き方について主体的に考え、行動する態度や能力の育成を推進する。ガイダンスの機能を充実させ、生徒一人一人の自己実現を支援する。
- ②総合的な学習の時間における地域学習・職場体験学習・国際理解学習等を通して、自分自身と社会との関わりについて考えさせるとともに、道徳の授業や読書活動等を「生き方」を学ぶ機会とする。生徒が自分の適性に合った生き方を選択できる力、望ましい職業観や勤労観を育み、進路を選択する態度や能力を養う。
- ③第1学年では「小笠原に関する環境」、第2学年では「平和」「身近な職業・様々な職業の働き方」第3学年では、「伝統と文化」「海洋生物」についての課題を設定し、自ら問いを立て、情報を収集し、整理・分析してまとめ、表現する力を養う。
- ④読書習慣の定着を図るとともに、豊かな心の育成や思考力・判断力の伸長を図る。
- ⑤体力向上に努め、健やかな体の育成を目指す。

- ・キャリア教育を組織的・計画的に行うとともに、身近な職業調べ、職場体験、企業訪問等を通して発達段階に応じて自身の将来の生き方について考える場面を設定した。ゲストティーチャーによる授業をオンラインで開催し、コロナ禍でのキャリア教育の工夫を行った。
- ・総合的な学習の時間には全学年教員が関わり、個々の立てた課題に対する探究的な活動を支援するとともに、コロナ禍の中でも外部人材をできる範囲で招聘し、多様な考えに触れさせ、自分自身と社会の関わりや、世界に関する興味や関心をもたせる場面を設けた。
- ・1年生は「母島移動教室」、2年生は「硫黄島訪島事業」、3年生は「修学旅行」を中心に自ら立てた課題について調べ学習を進め、情報を整理・分析してまとめ、学習発表会においてプレゼンテーションソフトを用いて発表を行った。相手に分かりやすく自分の考えを伝えることに力点を置き、表現する力を高めた。母島移動教室は3月に延期し実施、修学旅行は10月に延期し実施することができたが、硫黄島訪島事業は中止になった。
- ・コロナ禍で父島と母島の交流の機会が失われてしまったが、1年生の移動教室の前に、総合的な学習の発表をリモートで行い、交流を図った。貴重な時間の共有となった。
- ・特色ある教育活動として全生徒に管楽器を担当させて全校吹奏楽を行ったが、コロナのためにスタートが6月までずれこんだ。コンサートマスターやセクションリーダーを中心に主体的に縦割り集団の中での教え合いや練習の工夫をし、短い期間であったが2曲を完成させ、12月に延期した音楽発表会で保護者・地域に披露することができた。
- ・毎朝の10分間の朝読書の時間は生徒とともに全教員が教室に入り読書を行うことを通して学校全体で読書習慣の定着を図った。また図書室の蔵書の整理を大体的に行い、利用し易い図書室となった。新刊図書、推薦図書を定期的に紹介するとともに、学級文庫を充実させ読書への意欲を喚起した。
- ・小中高連合運動会、村主催ロードレース大会はコロナのため中止となった。代替の体育行事として、ダンス発表会や持久走記録会を実施し、球技大会とともに係・委員会を中心に、主体的に取り組ませることができた。部活動については大会が全て中止となったり、活動が再開されても時間の制限があったりする中で、短い時間で意欲的に集中して活動を行った。3年生の活動を9月まで延長し、自身の体力や技術の向上とともに後輩への指導を行わせた。

<p style="text-align: center;">取組 ④</p>	<p>地域の教育センターとしての役割を基盤として、積極的に保護者や地域の学校参画を推進し、「生徒の教育活動の豊かな拡がりの実現」を目指す。</p>	<p>①義務教育9年間を見通した年間指導計画の検討や、生活指導内容の共通化を推進する。中学校区全体の教育力の向上を図る。</p> <p>②災害時に地域の一員として行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p>③教育活動への地域人材の活用や、地域主催行事への生徒の参加など、学校・家庭・地域社会のネットワークの構築を推進する。</p> <p>④綿密な情報交換を心がけ、組織的、効率的な学校運営を進めていく。</p> <p>⑤コスト感覚に基づく無駄のない効率的な予算執行に努める。常に施設の安全点検を心がけ、生徒の学習環境の整備と安全な施設・設備の維持に努める。</p> <p>⑥必要となる行事等の場面では、その支援や援助をPTAに協力を依頼する。</p>	<p>・隣接する学校として小笠原小学校・小笠原高等学校と緊密に連携を取っていく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、最小限の関わりにとどまった。情報交換を進めてはいたが、年1回の教科交流会、授業公開時に相互の授業を参観し、学び合う機会は1回だけであった。中学校の教員が小学校に出前授業を複数教科で行う予定であったが、理科の授業を1回のみ、高校の教員が中学生向けに授業を行ったりする機会を設けることは今回は見合わせた。小中高連合運動会も中止となり、今年度は連携は十分ではなかった。なお、小笠原小学校とは管理職レベルでは十分に連絡を取り、緊密に連携を取ることができている。</p> <p>・9月の村主催の防災訓練では、本校体育館が避難所となり、地域の一員として避難を行った。また、毎月の防災訓練や安全指導において様々な様態での訓練を実施し、被災時の対応力をつけた。中学生が担う役割については今後も村防災課と協議を続けていく。</p> <p>・小笠原諸島森林生態系保全センター、国立天文台、小笠原ホエールウォッチング協会、硫黄島旧島民の会、気象庁父島気象観測所、等から外部講師を招き講演を行ったり、小笠原海洋センターの清掃、東平の外来種駆除、青灯台のノロ落とし等のボランティアに参加したりして、村に貢献するとともに、地域の方々との関わりをもった。郷土講座では地域の方を招聘し、地域の文化を直接教えていただく機会をもった。</p> <p>・予算請求・執行については偏りや無駄の無いように厳密にチェックした。月に一度の施設点検を組織的に行い、補修・修繕をすみやかに行うとともに、用務主事と連携し、生徒の清掃活動の充実を図り、常に安全できれいな学校施設の実現を図った。</p> <p>・PTAとの連絡調整は副校長が中心となって滞りなく進められた。ノロ落としや餅つき大会（今年度は中止・焼き芋配付）の段取り、機関誌の発行等にも関わり、コロナ禍でイレギュラーな活動形態ではあったが、途切れなく活動でき、次年度につなげることができた。また、緊急事態宣言発出中に行われた行事は、保護者・地域の方を校内に招かずに行ったが、担当学年のPTAの代表の方を記録係として写真や動画を撮っていただき、代表の方を通じて様子を伝えていただく形を今年度から行い、評価が高かった。</p>
---	---	--	--

*上記のことを踏まえて、次年度の学校経営方針及び教育課程を作成いたします。